

二〇二五年度

上宮学園中学校入学考査問題（一次入試適性検査型）

国語型

（注意）

- （１）この問題用紙は、「開始」の放送があるまで開いてはいけません。
- （２）問題は 一 から 二 まであります。試験時間は五十分です。
- （３）解答用紙は別に一枚あります。
- （４）解答用紙には、必ず受験番号・名前を記入しなさい。
- （５）「終了」の放送で、筆記用具を置きなさい。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

自分の人生をより快適なものにしていくために、今、自分は何を優先すればいいのか。それを選ぶのは他人ではなく、自分自身です。

そして、毎日がその選択の連続です。

ときには、その選択を間違ってしまうこともあるかもしれません。

もちろん、失敗はしない方がいいに決まっています。失敗すると周りにいる全員が嫌な気持ちになったり、多くの人が損をしたり、ありとあらゆる注ネカティブ感情の源になったりします。

巷には「どんどん失敗しなさい」などと言う人もいますが、それは疑問です。失敗してもいいという認識のもとでは、たとえば国同士の多少のもめごとでも、迷わず戦争を選んで構わないということになりますが、そうなると多くの人が犠牲になります。なるべくなら失敗はしない方がいいに決まっています。

またその一方で、「失敗したら終わり」ではない、ということを知るのも大切です。

自分の選んだ選択肢によって失敗したと思ったら、そのまま突き進むのではなく、またそこで諦めるのでもなく、学びから、前に選んだ選択肢をよりよいものにしていくという選択ができるはずです。

生物としてもっとも根本の原理は「死なないこと」ですから、まずは死なない選択をして、次にそれをもっといいものにするやり方を考えればいい。

また、「失敗したときには、こうすると注リカバリーできる」という方法を知っておけば、失敗は怖くありません。失敗しても、ダメージをもっとも少なくするための知恵を磨いておけばいいのです。

① そのため私がお勧めしたいのは、若い頃に受け身の方法を学んでおくことです。

受け身というのは柔道の用語ですが、投げられたときにその衝撃を和らげるために身につけておくべき重要なギ術<sup>a</sup>です。たとえ転んだとしても、骨折するのと手をすりむくのだったら、手をすりむく方がいいですね。どう転び、どう起き上がるのかを体で学んでおくことが大切なのです。

普段からそういうことに気をつけていると、自分にとって（A）にならない転び方ができるようになっていきます。基本的に失敗はしないほうがいいけれども、「失敗したときにどうするか」をきちんと考えておくということです。

過去に失敗した人や、失敗した生き物の例などを学んでおくのも（B）です。

さまざまな失敗事例を知り、原因や背景、対処法などを学んでおくと、自分が失敗したときに実<sup>b</sup>サイに役立つだけでなく、精神的なダメージを軽減することもできます。

あの注カリスマ経営者も、大リーガーも、天才発明家も、皆どこかで失敗していて、そこをどのようにリカバリーしてきたのかということを知っておけば、あなた自身の上手な受け身の方法にも生かすことができるのではないのでしょうか。

そもそも「失敗なんてあり得ない」と思っていると、そこで思考<sup>c</sup>テイ止してしまいます。

労働災害の分野に「ハインリッヒの法則」というものがあります。1件の大きな事故の裏には重大な事故まで至らなかった29件の軽い事故が隠れていて、さらにその背後には300件の異常が隠れているという経験則です。

異常というのは、怪我<sup>けが</sup>まではしないものの、ヒヤツとしたりハツとしたりするような体験です。表に出た重大事故の陰<sup>かげ</sup>には、そうした軽い事故や異常などの「小さな失敗」がたくさん隠れていると言われているのです。

でも、現場の人たちが「失敗はあり得ない」という認識していると、小さな失敗や異常はなかったことにされてしまいがちになります。失敗が許されない現場では失敗を認められないからです。

その結果として大事故が起きてしまうこともありますから、本来は、大失敗になる前に小さな失敗から学んでおくべきです。

② 私たち人間も同じです。

生きている限り、どんな人も失敗ゼロということはありません。

大人でもそうですから、まだ十数年くらいしか人生を経験していない人であればなおさら、経験が少ないために何かしら失敗をしているし、これからも失敗するはずです。ですから、ただ失敗を避けることを考えるよりも、してしまった失敗をうまくやりくりして、次の学びにする方がずっと大事ではないでしょうか。

③ また、忘れてはいけないのは、人生の選択はテストの選択とは違うということです。

誰しも「選択を間違えたかも」とか「あれを選んでよかったのだろうか」と思うことはあります。

でも、それが本当に失敗だったかどうかはテストと違って、誰にもこれという答えが出せないのです。

ひょっとしたら、失敗したと思ったことから意外な発見があるかもしれないし、思いもよらない道が開けていくかもしれません。そこで自分を変える出会いがあるかもしれないし、自分では失敗したと思うことでも「なかなか面白い考え方をするね」と喜んでくれる人がいるかもしれないのです。

自分の選んだ答えが正解だったかどうかは、誰にもわかりません。

だからこそ、常に自分の気持ちとしっかり向き合って、その状況で自分がいいと思うものを選ぶべきだと思うのです。

自分の気持ちと常に丁寧に向き合って、決断する力。

間違えたと思ったら、いったん立ち止まって、よりよい選択をし直す力。

自分や他人の失敗から学ぶ力。

④ こうしたことが、世間を生き延びていくために大事な力になっていくはずですよ。

(中野 信子『「バイアス社会」を生き延びる』による)

注 ネガティブ……消極的。否定的。

リカバリ……取り戻すこと。回復。

カリスマ……人の心を引きつけるような強い魅力を持っている人。

問1 ———線部 a、c は、どのような漢字を使いますか。———線部と同じ漢字を使うものを、次の中から一つずつ選んで、それぞれ記号で答えなさい。

a ア 正ギの味方が敵をこらしめる。 イ 陸上競ギ大会が行われる。 ウ 会ギ室にクラスの代表が集まる。

b ア 漢字のテストをサイ点する。 イ サイ心の注意をはらう。 ウ 国サイ交流のイベントに参加する。

c ア 五分テイ度の休憩をとる。 イ バスがテイ留所に向かう。 ウ 申し込みの書類をテイ出する。

問2 ———線部①「そのために私がお勧めしたい」とありますが、筆者が「お勧め」していることとしてふさわしいものを、次の中から二つ選んで、記号で答えなさい。

ア 失敗してしまったときにどのようにに対応すべきか考えておくこと。

イ 転んだときに大けがをしないように受け身の練習をしておくこと。

ウ 精神的なダメージを受けないように失敗しても気にしないでおくこと。

エ どんなときでも失敗をしないように普段から気をつけておくこと。

オ 過去の失敗事例を知り、原因や背景、対処法などを学んでおくこと。

問3 (A)・(B)に入る言葉としてふさわしいものを、次の中から一つずつ選んで、それぞれ記号で答えなさい。

ア 効果的    イ 感動的    ウ 印象的    エ 致命的

問4 — 線部②「私たち人間も同じです」とありますが、どういうことですか。それを説明した次の文の 



 から 



 に

入る言葉を 



 は五字、 



 ・ 



 は八字、 



 は四字で、文中からぬき出してそれぞれ答えなさい。(句読点も一字に数えます。)

失敗をしない人間はいないので、	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;">1</table> をなかったことにしたり、	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;">2</table> を考えたりするのではなく、
<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;">4</table> につなげるのが重要だということ。	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;">2</table> を考えた	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;">3</table> から学

問5 — 線部③「人生の選択はテストの選択とは違う」とありますが、どのように違うのですか。五十字以内で答えなさい。

(句読点も一字に数えます。)

問6 — 線部④「世間を生き延びていくために大事な力」とありますが、あなたが今後「世間を生き延びていくため」にどのような「力」が重要になると考えますか。本文の内容をふまえて、あなたの考えを具体的に八十字以上百字以内で答えなさい。ただし、次の「きまり」にしたがって書くこととします。

「きまり」

- ・ 題名は書かず、最初のマスから書き始めなさい。
- ・ 段落は変えず、一段落でまとめなさい。
- ・ 句読点も一字に数えます。

## 二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

他の植物たちと生育する場所をずらすことで、「密」を避けている植物がいます。昆虫などの小さな動物を捕らえて、栄養を吸収する植物たちで、これらは「食虫植物」といわれます。ですから、「食虫植物は、虫を食べるという、注 獰猛な生き物である」と考えられがちです。しかし、食虫植物には、生き残るために、昆虫を食べざるを得ない事情があったのです。

食虫植物として人気者のハエトリグサを例に、昆虫を食べるのもやむを得なかった事情を紹介します。しやうかい この植物はモウセンゴケ科に属し、原産地は北アメリカです。「ハエトリソウ」や「ハエジゴク」などの名前で、園芸店などで販売されることもあります。

この植物の葉っぱは、二枚貝が開いたような状態で向き合っています。二枚の葉っぱのまわりには、トゲがいっぱい生えています。一枚の葉の中には三本のトゲのような「感覚毛」とよばれる毛があります。ハエなどの虫がこの毛に触れると、二枚の葉がピタンと合わさるようにすばやく閉じて、葉と葉の間に閉じ込めてしまします。この葉は、「捕虫葉」とよばれます。

多くの植物は、光合成によって、生きるためのエネルギーや成長のための栄養を得ています。それに対し、食虫植物は「虫を捕らえて、食べて栄養としている」といわれます。そのため、「食虫植物は、光合成をしない」と思われがちです。

しかし、<sup>①</sup>そうではありません。ハエトリグサは、いかにも動物のように生きているという印象がありますが、この植物は、ふつうの植物と同じように、光合成のための光を吸収する色素である、緑色のクロロフィルをもっています。ですから、食虫植物は光合成を行います。「食虫植物は、虫を食べるから、光合成をしない」というのは、誤解なのです。

食虫植物であるハエトリグサは、光合成を行いますから、日当たりの良い場所を好んで生活します。この植物は、「虫から栄養を得る」と思われていても、十分な光と水があれば、光合成をするのです。

ですから、成長や生きるためのエネルギーとなるデンプンは、自分でつくることができます。そのため、光合成でつくることができるデンプンを求めてはいません。それなら、「なぜ、虫を捕らえて食べるのか」という疑問がおこります。

実は、ハエトリグサが虫から手に入れているのは、タンパク質などの窒素ちっそを含んだ物質ぶくです。植物が生きていくために必要なタンパク質やクロロフィル、遺伝子などをつくるためには、窒素が必要なのです。

ハエトリグサは、タンパク質などをつくるために必要な窒素を、虫から取り入れる方法を身につけました。ちなみにこの方法は、そんなに突拍子とつぱうしもないものではありません。私たち人間も、窒素を含むタンパク質などの栄養を、ウシやブタ、ニワトリや魚の肉から取っています。

ふつうの植物は、窒素を含んだ養分を、土の中から吸収します。そのため、私たちが植物を栽培さいばいするときには、土の中に不足しがちな窒素、リン酸、カリウムを三大肥料として、土に与あたえます。

では、「なぜ、ハエトリグサは、根から窒素を含んだ養分を吸収しないのか」という疑問が浮かびます。

実は、この植物の原産地は、北アメリカの窒素の養分をあまり含まない痩せた土地なのです。そのため、ハエトリグサは、土の中から窒素という養分を十分に吸収できません。そこで「虫のからだから、窒素を含んだ物質を取り込む」という能力を身につけたのです。そうすることで、肥沃ひよくでない土地にでも生きていけるようになったのです。

ふつうの植物は、そのような養分が乏とほしく痩せた土地では生きていきません。ですから、「そんなしくみを身につけてまで、肥沃でもない土地に生きる利点はあるのか」との疑問が残ります。

その答えが、他の植物と「密」になって育つことを避けることなのです。ハエトリグサは虫を捕らえ、虫から窒素を含むタンパク質を摂取せつしゅする方法を身につけることによって、決して「密」にはならない自分だけの生育地を確保したのです。

「虫を食べて、窒素を含む栄養を取り込む」という能力を身につければ、生育地を奪うばい合う競争をせずに他の植物たちが育つことができないう土地で、「密」にならずに、生きていくことができるからです。

②「必要は、発明の母」ということわざがあります。「発明王」といわれる、トーマス・エジソン（一八四七―一九三二）の言葉といわれることがあります。でも、ほんとうは、もう少し古く、一七二六年に、イギリスの小説家、ジョナサン・スウィフトが出版した『ガリバー旅行記』の中に出てきたものとされます。



ハエトリグサは、もっと古くから生きているでしょうから、このことわざを知っていたはずはありません。しかし、ハエトリグサのもつ、虫を捕らえる捕虫葉は、このことわざの一つの例といえるでしょう。

(田中 修『植物のいのち』による)

注 瘁猛……きわめてあらあらしいこと。

問1 — 線部①「そうではありません」とありますが、これはどういうことですか。それを説明した次の文の 1・2に入る言葉を 1は十字、2は七字で、文中からぬき出してそれぞれ答えなさい。(句読点も一字に数えます。)

食虫植物は、生きるためのエネルギーや成長のための栄養を、1得ているのではなく、2得ているということ。

問2 — 線部②「必要は、発明の母」とありますが、ハエトリグサはどのような必要があり、何を発明しましたか。本文の内容をふまえて、**八十字以内**で答えなさい。ただし、次の「きまり」にしたがって書くこととします。

「きまり」

- ・ 題名は書かず、最初のマスから書き始めなさい。
- ・ 段落は変えず、一段落でまとめなさい。
- ・ 句読点も一字に数えます。